

長野県立こども病院総合小児科では、来年 2019 年度のフェローを若干名募集します。
対象は卒後 6 年目以上の方で、小児科の基礎的な研修を終了している方です。

(期間については別途ご相談。)

こども達の心身の健康のために力を尽くすことに使命感と誇りを持つことができる、常識的な医師を求めます。

<当科で学べること>

1. いろいろな問題を有する小児患者さんに全面的に関わり、他科・他職種との協力を通じて、ケアの全体をデザイン・実践できる。
2. 病歴聴取と理学所見を重視した小児診療の基本の徹底。
3. post PICU、post NICU 児の在宅移行を含む諸問題の理解と解決に取り組む。
4. 小児感染症コンサルテーションの作法・技法を実地で学ぶ。

<当科で担当する主な疾患・病態>

1. 基本的にすべての小児内科疾患(小児救急を含む)。感染症、呼吸器、消化器、内分泌・代謝、アレルギー疾患、先天異常、腎泌尿器、神経など。
2. 当院救急医療の入院部門の担当。外科系入院患者の内科急変事象(院内発熱、ショック、呼吸器系のトラブルなど)への対応。
3. 様々な問題を抱える慢性疾患患者(重症心身障がい、慢性肺疾患、先天性心疾患等)の全身管理や併発急性疾患の管理。
4. 「感染症チーム」としての活動。PICU や NICU を含めた各専門科からの様々な感染症相談に対応しています。月間 20~30 例ですが、多種多様な感染症を学ぶことができます。

なお毎週木曜朝に成育医療センター、都立小児総合医療センター他とオンラインで症例検討会を行なっています。

5. 感染制御チーム (ICT) 活動への参加。院内での感染症アウトブレイクへの対応や、感染防止マニュアルの策定、抗菌薬適正使用 (Antimicrobial Stewardship Program) の実践など。感染管理看護師や細菌検査室、薬局とも密接な連携をとり、活動しています。他院との相互ラウンドや合同カンファレンスなども定期的に行なっています。
6. 県内全域から来る食物アレルギーを中心としたアレルギーに関する診療。経口食物負荷試験を積極的に実施しています (2017 年度は 270 件施行)。スギ花粉症及びダニアレルギーのアレルゲン免疫療法も外来で施行しています。
7. 県内全域から小児内分泌疾患患児の紹介も多く、その疾患も多岐に渡っています。また当院は専門科医師が揃っているため他科絡みの患児で内分泌学的な問題による紹介・相談も多数あります。

長野県下の新生児マススクリーニングは当院検査部で全て行っています。従来の先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎皮質過形成症に加えてタンデムマス検査が診断の端緒となる先天性代謝異常症の診断・治療、その後のマネージメントなどを一手に行っています。

<研修オプション>

- ・臨床研究はもとより、院内で遺伝子研究などの基礎研究なども行うことができます。
- ・大学院進学（連携大学院）、英語論文の指導も行います。

<指導体制>

指導医は4名（樋口、竹内、南、小池）。全員小児科専門医です。

量より質を重視するため業務は濃密ですが、比較的ゆったりとした職場環境です。都会の喧騒を離れて風光明媚な信州・安曇野の地で一緒に学び、働きましょう！小さい子どもさんを育てている世帯にも、好適な環境だと思います。

ご興味があれば、以下にご連絡ください。

*定員に達し次第、予告なく募集を中止しますことを、ご了承ください。

連絡先アドレス：higuchit.naganoch@gmail.com

長野県立こども病院

長野県安曇野市豊科 3100

総合小児科 樋口 司（部長）